学校現場は今
春野高校便り

春野高校　井上千夏

高知県立春野高校は、今年で創立111年目を迎える歴史と伝統ある学校です。現在は、2年次生から、園芸系列、食農系列、生活クリエイト系列、人文系列の4つの系列を選択する、総合学科となっています。今年入学した1年次生は、「産業社会と人間」という授業で、自分の2年次、3年次の選択授業を調べ、時間割を決めていく作業を行っている最中です。「春野探求」という学校独自の授業では、あじさい街道の保全やあじさい祭りへの協力など、学校の特色を生かした地域貢献も行われています。学校規模が12クラスと中規模のため、教員1人に対しての仕事量は多く、支援を必要としている生徒も多いため、忙しい毎日を送っています。また、「人権教育推進事業」、『「キャリア・パスポート」活用事業』、の2つの指定事業も抱えています。特に、「人権教育推進事業」では、人権教育の視点を取り入れた授業を全教員が年2回、公開授業として行い、2回目の公開授業では全国から参観者がやってくるため、すでに校内研修を行い準備が始まっています。さらに、基礎学力の定着・向上のため、今年度より退職教員をアドバイザーとする「学校支援チーム」が県教委に設けられました。具体的には、『ベネッセの基礎学力診断テストでのD3層（最下層）』を減らすため、国語・数学・英語の先生がチームを組んで、改善策を検討していく、という内容です。国語・数学・英語の先生は、交代で公開授業を行いながら、話し合いにも参加するため、大きな負担となっています。春野高校も他校同様ますます忙しくなりそうです。

人権共闘
2018年度総会及び学習会

・日時　7月28日(土)　15:30～
・婦人会館
・学習会テーマ
『「教育」「指導」という名の学校における人権侵害』
高知大学　加藤誠之先生
※総会の後懇親会（予定）

趣味悠々
退職して一年

岡崎　ゆか

初めは何となく、「定年になる少し前に退職できたらいいなあ」と思っていただけだったのですが、思い始めると日々の忙しさの中で思っていた以上にその思いが大きくなり、経済的な面では多少の不安はあったものの、そこはいつもの「まあ何とかなるろう」という楽観的な考えで定年まで二年を残してあっさり退職しました。辞めた後何をしたいという目的があったわけではなかったのですが、朝早く家を出て、夜七時過ぎに帰宅し食べて寝るだけの生活にだんだん嫌気がさしたのかもしれません。

さて、そんな感じで辞めてみると一年があっという間に過ぎていました。仕事を辞める前と後では時間の流れが全然違っていることです。在職中は、毎日十二時間近く拘束され仕事に追われてバタバタしながら一日を過ごし、それでも全ての仕事が終わるわけではなくどうしても持ち帰り仕事はしたくないので、明日の風が吹くと（吹かないのですが）言い聞かせて帰る毎日でした。一週間が経つのが遅く、もう週末の気分なのにまだ水曜日というグッタリした思いで過ごしていました。

ところが、辞めてみると一週間があっという間に過ぎ、一か月がすっと過ぎ、春から夏へと移ろい秋から冬へと一年がさっと経っていました。サザエさんを見ても憂鬱にならず、月曜日にごみ出しすぐに週末がやってきます。時々眼科や耳鼻科の予約を入れ、ちょっと血圧も高めなので内科の予約もあります。そして、クローゼットに入り切らないほどの洋服をあっちへ移しこっちへ移し衣替え、ダウンのコートをクリーニングにやっと出したと思ったらもう半袖の季節です。この一年何をしたということはないのですが、チューリップの球根の堀りに行って花壇づくりをしたり、お花見や紅葉狩り、時々旅行にも誘ってもらったり、時間の流れの違いを感じながら平凡な生活をしています。四月からは退職二年目に入りました。あっという間の一年の中で二年目は平凡な生活に何をプラスしようかなと考えているところです。

いのの風にふかれて⑥

山崎　きよ

いの町には今18人の議員がいます。その内女性は私を入れて4人。その中でも私が一番親しく、そして尊敬している女性議員から聞いたお話です。中学校の時に坂本九郎という先生に習ったそうです。その先生がいつも口癖のように言っていた言葉を「今でもそらんじることができる。」といって暗唱してくださいました。

だれもかれもが力いっぱいにのびのびと生きてゆける世の中
だれもかれも「生まれて来てよかった」と思えるような世の中
じぶんを大切にすることが同時にひとを大切にすることになる世の中
そういう世の中を来させる仕事
がきみたちの行くてにまっている大きな大きな仕事
生きがいのある仕事

そして「子どもの時教わった先生の影響は本当に大きい。いい先生に出会ってよかった」としみじみ言われました。

私はその時、「昔はステキな先生がいたんだな」と何気なく聞いていましたが、後になってこの言葉がだれのものか分かりました。最近、本屋でベストセラーになっている「君たちはどう生きるか」の作者、吉野源三郎のとびらの文章だったのです。

私はこの本を読んだことが無かったので、いの町の図書館で借りて読みました。そして、今の時代にこの本が多くの人々に読まれていることに感動を覚えました。

この本の中でコペル君という中学生におじさんが問いかけます。貧しくて家業の豆腐屋の浦川君と学校に行かせてもらい勉強だけしているコペル君を例に挙げて、「自分が消費するものよりも、もっと多くのものを生産して世の中に送り出している人と、何も生産しないで消費するばかりしている人間と、どっちが大切な人間か一こう尋ねてみたら、それは問題にならないじゃないか。」「君はたしかに消費ばかりしていてなに一つ生産していないうちに、ほかの点で、ある大きなものを、日々生み出しているのだ。それは、いったいなんだろう」コペル君が日々生み出しているものは何か、これは私の宿題です。

日本母親大会（高知開催）参加と協力を

64年目にして初の高知開催
2018年
8月25日、26日
高知市

今年の8月25日（土）と26日（日）に高知市で開催されます。

日本母親大会はビキニ環礁での水爆実験よって、日本のマグロ漁船第五福竜丸の被災が判明したことを契機に、1955年6月に東京で第1回が開催されました。その後、日本母親大会は1年も休むことなく63回開催されています。そして、64回目の今年は高知いよいよ開催です。

高知県規模の小さな県での開催は初めてです。小さな県ではありますが、頼まれたら断ることはできないキップの良さと、高知の風土が育んだ「やればできる！」といった生来の楽天性が高知開催を実現させました。

現に、昨年の岩手大会に引き継いで、高知県全市町村、また、その全教育委員会の後援を頂くことができました。ま た知事と開催市長の全体会参加も決まりました。これは長い日本母親大会史上、昨年初めて実現したことです。それを連続して実現させることができました。また、日本母親大会のしおりの広告取りでは30ページ分の目標が47ページ分達成することができています。

高退協の会員達が長年取り組んできた、高校生の聞き込みや端を発したビキニ水爆の被害者救済訴訟が、高知県を中心に大きく展開されている情勢の中で、ビキニ水爆を契機に始まった日本母親大会がこの高知で開催されます。

26日の「世界と連携して核兵器廃絶へ」の分科会では会員の山下正寿さんが助言者を務めます。また、日本母親大会現地実行委員長は会員の畑山佳代さんです。高退協としても実行委員会に団体加入し、代表を出して全面的に協力しています。大会当日の要員としても、交通案内係の要請がきています。大会への参加と要員へのご協力をぜひよろしくお願いします。お問い合わせは高退協事務局まで。

この夏、日本母親大会へぜひご参加ください！